
手

冴島岐之

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
手

【コード】
N9966C

【作者名】
冴島岐之

【あらすじ】
ありえないんだ、俺が誰かを好きになるなんて。

(前書き)

かなりぬるいBLです。

飽きたら捨ててやるうと思ってた。まあ、嬉しい誤算ってやつかもしれない。否、やっぱり苦しい。

「誰、さっきの」

放課後の教室、あとは帰るだけ。それを引き止めたのは古文の教師で、原因は俺の居眠りなんだけど。

置いていったのは俺で、待っていたのはこいつだ。待ってくれていたんだけど。

「誰って、知らねーの？ 隣のクラスの坂木じゃん」

「知ってる」

「じゃあ何？ 早く帰ろーぜ。俺、腹減ったし」

イライラする。白い手首を掴んだ手が、不安から力が抜けていった。それでも離さないけど。

普通じゃないのは俺だけど、こいつだって同じ円の中に立ってるんじゃないのか？ それなら俺の気持ち、わかってくれたっていいじゃないか。

「なあ、もしかして嫉妬してたりする？」

「……うるせー」

俺が目を逸らして呟くと、息を吐くような笑い声が微かに聞こえ

た。

「あんね、そういうときは誰じゃなくて、何って聞くの。わかる？
この違い」

見透かされて、鼻で笑われる。俺は掴んだ手を離す。ムカつく、
全部が、ムカつく。でも。

「……何、あいつ。お前にとって、あいつは何？」

「友達。ただの友達だよ。元クラスメート」

「ん」

俺が赦すのはお前だけだよ。誰が赦さなくても、お前にだけは赦
されたい。

間違っているといわれても、この感情は消せないんだ。

「帰ろう、暗くなる」

「ああ」

手は繋げない。キスも、抱きしめることも、できない。偏見が怖
いからだ。それは俺だけじゃなくて、こいつも同じで。

「リョウ」

「なに？」

振り返る、やわらかい表情で、なにと紡いだ声がやわらかすぎて、

俺は泣きたくなる。ほとんど不意打ちで、ぶっつけるように額に唇を押し付けた。

「なんでもない」

「そっか」

くすくすと笑い、あいつは俺の前を歩く。

飽きたら捨ててやるうと思ってた。ただの興味だったから。けど、やっぱりそれはできない。これは、嬉しい誤算か？

苦しいだけかもしれない、未来に堪えられるかなんて、わからない。それでもまだ、手放したくない。

夕日で伸びたりヨウの影に、俺は自分の影をそつと重ねた。手を、繋いだ。

＝ END ＝

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9966c/>

手

2011年10月4日10時42分発行